

論文審査の要旨および学識確認結果

報告番号	甲／乙第	号	氏名	根本 啓一
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学	教授	工学博士 岡田 謙一
	副査	慶應義塾大学	教授	工学博士 萩原 将文
		慶應義塾大学	教授	博士(工学) 重野 寛
		慶應義塾大学	教授	博士(工学) 櫻井 彰人
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>学士(工学)、修士(工学) 根本啓一君提出の博士学位請求論文は「内発的動機づけに基づく自発的コラボレーション支援に関する研究」と題し、全6章より構成されている。</p> <p>根本君の研究の目的は、特定の組織に限定されない様々な立場の当事者が関与する課題に対し、当事者が自己組織的に課題解決を行う自発的コラボレーションの支援方法を提供することである。支援のアプローチとして、活動そのものが動機づけ要因となる内発的動機づけに着目している。</p> <p>具体的には、対話型ワークショップにより課題当事者が自ら目的の共有を行い、課題解決に向けた活動内容の設計を行う参加型のプロセスを用いる。そして、設計した活動をゲームとして実施可能とする機能を実装したウェブシステムにより活動の支援を行う。実証実験により目的を共有する対話型ワークショップの支援方法と、ゲーム化による活動支援の2つの支援方法の検証を行った。</p> <p>1つ目の支援方法は、当事者が対話を通じて目的の共有を行う対話型ワークショップを対象としている。従来、調査票でしか得られなかった対話プロセスの計測に対して、対話によって形成される参加者間の社会ネットワークに着目した定量評価指標を提案している。実ケースを対象とした分析を通じて提案指標を検証し、調査票による対話プロセスの評価と提案指標との相関を確認した。</p> <p>2つ目の支援方法は、課題解決活動をゲームとして設計し、ウェブシステムにより活動を支援するプロセスを対象としている。始めに当事者が具体的な活動内容を策定し、活動の実施と、実施した活動へのフィードバックから得点が得られるように構成されたゲームルールを設計する。次に設計したゲームルールに基づき、活動とフィードバックから得られた得点を集計する機能を持つウェブシステムを用いて課題解決活動の支援を行う。検証の結果、提案方法により当事者が自ら課題解決に向けた活動に基づくルールを設計し、持続的な解決活動の実施を支援できることを確認した。</p> <p>本論文の構成を以下に示す。本論文は全6章から構成され、第1章では本研究の目的と背景について述べている。</p> <p>第2章では、本論文で扱うコラボレーションについて定義し、コラボレーション支援の課題を述べている。次に、コラボレーションへの参加動機づけに関する先行研究を整理し、内発的動機づけに必要な要件を示している。最後に、本論文の位置付けを述べている。</p> <p>第3章では、自発的コラボレーションの実態調査として、Wikipediaを対象とした分析を実施している。分析の結果から、質の高い記事を短期間に作成するグループでは、参加者の間に密な社会ネットワークが構築されていることを明らかにしている。この知見と第2章で述べた動機づけ要件をもとに、自発的コラボレーションの支援モデルを策定し、設計指針を示している。</p> <p>第4章では、設計指針に基づき、当事者自身が目的の共有を行う対話型ワークショップの支援に向け、対話プロセスを計測する指標を提案している。提案指標は参加者間の発話順序から抽出した社会ネットワークに基づき算出される。具体的なテーマを設定した対話型のワークショップを実施する実証実験により、提案指標の有効性と課題について述べている。</p> <p>第5章では、設計指針に基づき、活動を集計し得点化するゲーム化により活動への参加を促進する支援方法を検証している。支援方法では、活動の設計と得点化のためのゲームルール作りを行う参加型のワークショップと、ルールに基づき活動を集計し得点化するゲーム化機能を実装したウェブシステムを用いている。具体的な課題を設定した実証実験の結果から支援方法の効果と課題について述べている。</p> <p>第6章にて、本論文の結論を述べている。</p> <p>以上のとおり、本研究により、自発的コラボレーションの支援方法が示された。これらの研究成果は、工学上、工業上寄与するところが少なくない。よって、本論文の著者は、博士(工学)の学位を受ける資格があるものと認める。</p>				
学識確認結果	学位請求論文を中心にして関連学術について上記審査委員会委員で試問を行い、当該学術に関し広く深い学識を有することを確認した。 また、語学(英語)についても十分な学力を有することを確認した。			